

2019年度重点施策と関連設備投資について

2019年度も、安全・安定輸送の確保を最優先に、東海道新幹線の脱線・逸脱防止対策をはじめとする地震対策、土木構造物の大規模改修工事等を着実に進めます。また、N700A（3次車）の投入を完了し、東海道新幹線全列車の最高速度285km/h化を実現することにより、利便性・安定性をさらに高めるダイヤ改正を2020年春に実施するなど、輸送サービスの充実に取り組みます。加えて、2020年度に予定している次期新幹線車両N700Sの営業運転開始に向けた準備を進めるほか、ハイブリッド方式による在来線次期特急車両の試験走行車を新製し、走行試験を開始します。

超電導リニアによる中央新幹線計画については、安全、環境、地域との連携を重視して、着実に進めます。高速鉄道システムの海外展開についても着実に推進するとともに、関連事業については、JRセントラルタワーズとJRゲートタワーの一体的な運営をさらに充実させ、相乗効果を発揮することで、収益拡大を図ります。

こうした各種課題を着実に進めるため、引き続き、収益力の強化と技術レベルの不断の向上に取り組むとともに、設備投資を含めた業務執行全般にわたり知恵を絞り効率化と低コスト化を徹底し、経営体力の充実に図ります。

I. 重点施策（別紙参照）

- 安全・安定輸送の確保
- 輸送サービスの充実
- 超電導リニアによる中央新幹線計画の推進
- 超電導リニア技術のブラッシュアップ及びコストダウン
- 営業施策の強化
- 技術開発の推進、地球環境保全、高速鉄道システムの海外展開
- 関連事業の着実な推進

II. 設備投資額

連結：6,210億円、単体：5,830億円

※中央新幹線を除いた設備投資額（単体）は2,730億円、うち安全関連投資は2,110億円

安全・安定輸送の確保

(設備投資額：1,590億円)

地震対策をはじめ構造物のさらなる強化に取り組みます

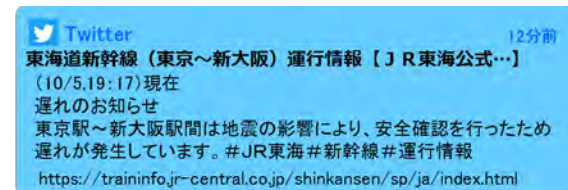
- 東海道新幹線の脱線・逸脱防止対策について、脱線防止ガードの全線への敷設を進める。
- 地震による駅の吊り天井の脱落防止対策や名古屋工場、在来線の高架橋柱等の耐震化を進める。
- 東海道新幹線の大規模改修工事について、技術開発成果を導入し、施工方法を改善するなどコストダウンを重ねながら着実に進める。



大規模改修工事

自然災害等に、より安全・適切に対応する取り組みを進めます

- 台風や豪雨等により列車運行に大きな影響が予想される場合に、安全を最優先に、早期に抑止することを含めて適切な運行計画を決定し、抑止後には速やかな運転再開を行うとともに、より迅速かつ的確な案内情報の提供に取り組む。
- 自然災害や不測の事態等の異常時に想定される様々な状況に適切に対応するため、実践的な訓練を繰り返し実施する。
- G20大阪サミット、ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催にあたり、関係機関と連携し、駅や車内等における安全の確保及び円滑な輸送の提供に努める。



案内情報の提供イメージ

(参考) ・脱線防止ガード敷設：2019年度 約98km

・駅天井の脱落防止対策：新幹線 全17駅、在来線 30駅 (2016～2026年度 約130億円)

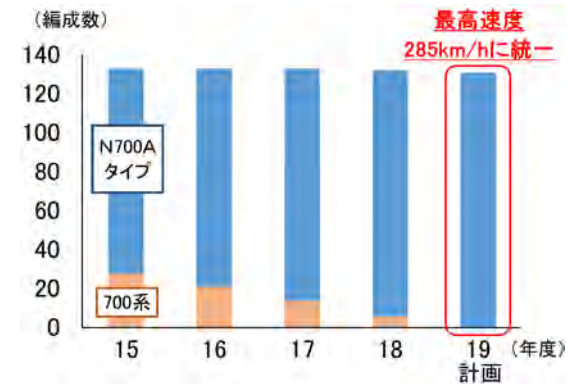
・大規模改修工事：2019年度 340億円 (2016～2019年度 1,450億円)

輸送サービスの充実（1）

2020年春に新幹線全列車285km/h化を活かしたダイヤ改正を行うなど、利便性・快適性をさらに高める取組みを進めます

- 「のぞみ10本ダイヤ」を活用して、ご利用の多い時期や時間帯に、需要にあわせたより弾力的な列車設定に引き続き取り組む。
- N700A（3次車）の投入を完了し、N700Aタイプへの車種統一を行うとともに、既存車両に地震ブレーキの停止距離短縮等の3次車の特長を反映させる改造工事を完了する。
- 車種統一に伴う東海道新幹線全列車の最高速度285km/h化を最大限に活かし、利便性・安定性をさらに高めるダイヤ改正を2020年春に実施する。
- 地震ブレーキ距離の短縮や状態監視機能の強化等による安全性・安定性の向上や、バッテリー自走システム等による異常時対応能力の強化などを実現する次期新幹線車両N700Sの投入準備を着実に進める。
- 「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、引き続き需要にあわせ弾力的に増発や増結を行う。

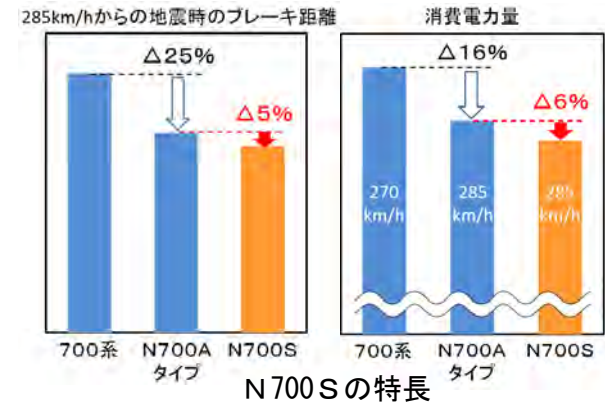
（設備投資額：620億円 ※(1)(2)計）



東海道新幹線の車両別編成数（年度末）の推移



N700S



（参考）・N700A（3次車）：2019年度 5編成（2016～2019年度 20編成投入）

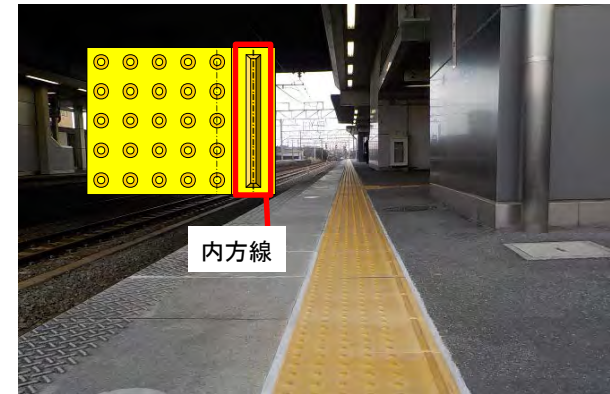
・3次車の特長を反映させる改造工事：2019年度 19編成（2017～2019年度 111編成対象）

・N700S：2020年度 12編成（2020～2022年度 40編成投入）、2020年7月営業運転開始予定

輸送サービスの充実（2）

より便利に安心して鉄道をご利用いただけるよう設備の整備等を進めます

- ホーム上の可動柵について、新幹線では新大阪駅の20～26番線への設置工事を進め、順次使用を開始するとともに、在来線では金山駅の東海道本線ホームへの設置工事に取り組む。
- 東海道本線御厨駅開業^{みくりや}に向けて、建設及び諸準備を進める。
- 在来線ホームにおける内方線付き点状ブロックの整備対象を乗降1千人以上の駅に拡大して取替を進める。
- 在来線駅におけるエレベーターや多機能トイレの設置等バリアフリー設備の整備を推進する。



内方線付き点状ブロック



新大阪駅 大開口可動柵設置イメージ



御厨駅 完成イメージ

- (参考) ・新大阪駅可動柵：2022年度までに20～26番線に設置予定（27番線は設置済）
25・26番線は2019年度使用開始予定
- 金山駅可動柵：上りホームは2021年3月、下りホームは2021年12月使用開始予定
 - 御厨駅：東海道本線袋井駅～磐田駅間に2020年春開業予定

- 内方線付き点状ブロック
乗降3千人以上の駅：2018年度に整備完了
1千人～3千人未満の駅：2019年度から未整備の45駅の整備に着手

超電導リニアによる中央新幹線計画の推進

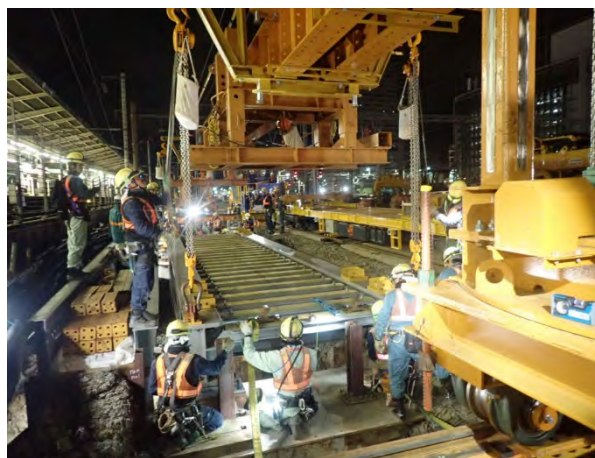
(設備投資額：3,100億円)

超電導リニアによる中央新幹線計画について、安全、環境、地域との連携を重視し、沿線各地で工事を着実に進めます

- 中央新幹線計画については、**健全経営と安定配当を堅持**し、柔軟性を発揮しながらプロジェクトの完遂に向けて、さらなる緊張感を持って着実な推進に取り組む。
- 引き続き、**地域との連携を密にしながら、測量、設計、用地取得等**を計画的に遂行する。
- 工期が長期間に亘り難易度が高い、**南アルプストンネル、品川駅、名古屋駅**のほか、**山岳トンネル、都市部非常口等**について、**工事の安全と環境の保全を重視し**、引き続き**トンネルや非常口の掘削、地中連続壁の構築等**の各種工事を着実に進める。また、2018年10月の大深度地下使用の認可を受けて、都市部トンネルの掘削に向け、**シールドマシンの製作等**を行う。
- 中央新幹線の高度かつ効率的な運営・保守体制の構築に向けて取り組む。



南アルプストンネル(山梨工区)：本線トンネルの掘削



名古屋駅：工事桁の架設



北品川非常口：躯体の構築

(参考) ・工事桁：地下駅の建設に際し、現在使用している線路の直下を掘削した際に線路に変状が生じないようにするために一時的に敷設する、鋼製の橋桁

超電導リニア技術のブラッシュアップ及びコストダウン

(設備投資額：20億円)

超電導リニア技術のさらなるブラッシュアップ・コストダウンに引き続き取り組みます

- ・山梨リニア実験線において、営業線仕様の車両及び設備により、2編成を交互に運用して、引き続き**長距離走行試験**を実施する。
- ・営業車両の仕様策定に向けた**改良型試験車**を製作する。
- ・営業運転に対応した保守体系の確立に向けた実証等を進めるとともに、さらなる**超電導リニア技術のブラッシュアップ**及び**営業線の建設・運営・保守のコストダウン**に取り組む。
- ・改良型試験車の投入も見据え必要な走行試験を着実に行う中で、「**超電導リニア体験乗車**」を実施し、超電導リニアのさらなる理解促進に取り組む。



L0系による走行試験の様子



改良型試験車

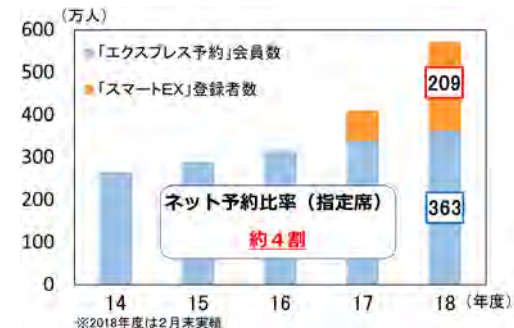
(参考) ・山梨リニア実験線における長距離走行試験：累積走行距離276万km (2019年2月末まで)
・改良型試験車：2020年春 完成予定 (製作車両数 先頭車：1両、中間車：1両)

営業施策の強化

(設備投資額：80億円)

新幹線のネット予約を多くのお客様にご利用いただけるよう取り組みます

- ・「**エクスプレス予約**」及び「**スマートEX**」の便利さを知っていただき、より多くのお客様にご利用いただけるよう取り組む。
- ・「EXのぞみファミリー早特」など**観光型商品**の販売促進を通じて幅広く需要の喚起を図る。



EXサービス会員数・登録者数(年度末)推移

沿線の観光資源の魅力を活かし、営業施策を積極的に展開します

- ・京都、奈良、東京、飛騨等を対象に、**魅力ある商品設定や観光キャンペーンの展開**に取り組む。
- ・JR 6社で行う「**静岡デスティネーションキャンペーン(静岡DC)**」を通じて、自治体や旅行会社等と連携し、魅力ある観光素材・商品の開発や観光列車の運行等に取り組む。



静岡DCポスター

海外からのお客様に便利に鉄道をご利用いただけるよう取り組みます

- ・「**スマートEX**」の訪日外国人向けサービスのご利用拡大を図るとともに、**ラグビーワールドカップ2019日本大会**開催による需要も取り込みながら、**周遊きっぷ等の販売促進**に努める。
- ・訪日外国人へのご案内の充実を図るため、**タブレット端末等を用いた放送や、運行情報を充実させた当社ホームページ等**を活用したご案内に努めるほか、**無料Wi-Fiサービスの新幹線全車両への導入**を完了する。



携帯通訳機を活用したご案内

(参考)・無料Wi-Fiサービス提供範囲：東海道新幹線N700Aタイプ、特急「ひだ」「南紀」車内、新幹線全17駅、在来線24駅(新幹線との併設駅6駅含む)
・静岡DC：2019年4月から6月に静岡県とJRグループが共同で開催

技術開発の推進、地球環境保全、高速鉄道システムの海外展開

(設備投資額：10億円)

安全やコストダウンに資する技術開発、地球環境保全の取組みを推進します

- ・ N700S 確認試験車による長期耐久試験や360km/hでの速度向上試験等を行う。
- ・ ハイブリッド方式による在来線次期特急車両の試験走行車を新製し、走行試験を開始する。
- ・ 状態監視技術等を活用した検査や保守の高度化・省力化、及び設備の維持更新におけるコストダウンにつながる技術開発を推進する。
- ・ 地震や豪雨等の各種災害に対して、より安全性を高めるための技術開発を実施する。
- ・ N700Aなどの省エネ型車両への取替等、地球環境保全に資する諸施策を推進する。



ハイブリッド方式による
在来線次期特急車両（試験走行車）

高速鉄道システムの海外展開の取組みを推進します

- ・ 米国テキサスプロジェクトの事業開発主体に対して、「HTeC」により技術支援を進めるとともに、「HInC」により日本側企業とともにコアシステム受注の契約に向けた協議を本格化する。また、超電導リニアシステムを用いた米国北東回廊プロジェクトのプロモーション活動を推進する。
- ・ 台湾高速鉄道において運行管理システムの更新工事等の技術コンサルティングを引き続き進める。
- ・ 「Crash Avoidance（衝突回避）」の原則に基づく日本型高速鉄道システムを国際的な標準とする取組みを進める。



「HTeC」による駅候補地での検討の様子(ダラス)

(参考) ・ハイブリッド方式による在来線次期特急車両：2019年末に試験走行車が完成予定、2022年度を目標に量産車を投入する方向で検討中
・「HTeC」・「HInC」：米国テキサスプロジェクト推進のために当社が設立した現地子会社

関連事業の着実な推進

(設備投資額：410億円 (うち連結子会社の設備投資380億円))

JRセントラルタワーズとJRゲートタワーを中心に、お客様により一層満足いただけるよう、関連事業を推進します

- ・ JRセントラルタワーズとJRゲートタワーの一体的な運営をさらに充実させ、相乗効果を最大限に発揮することにより、様々なニーズにお応えし、収益の拡大を図る。
- ・ 流通事業における駅構内の店舗開発や駅ビル事業における駅商業施設のリニューアル等により事業を活性化するとともに、当社所有地の有効活用に取り組み、さらなる収益拡大を図る。
- ・ 東京駅において、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、商業開発を進める。



セントラルタワーズとゲートタワー



静岡駅ビル「パルシェ」リニューアル後の様子